

教授

永井 真紀

NAGAI Maki

Profile

栄養専攻教授。1999年筑波大学大学院体育研究科コーチ学専攻スポーツ医科学学際カリキュラム修士課程修了（修士（体育学））。2016年群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 博士課程入学（在籍中）。2010年明和学園短期大学非常勤講師、専任講師、准教授を経て2022年4月より現職。2022年4月より群馬県立前橋西高等学校評議員。

群馬県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会、群馬県教育委員会を始め、幼稚園・こども園、小・中学校のPTAセミナーや学校保健委員会、群馬県栄養士会、群馬県社会福祉協議会等で「食を含む生活習慣と運動機能の関連」について多数講演。高崎市小学校体育研究会主催の「たのしいバスケットボールの授業づくり」で研修会講師を勤める。

専門は、「健康教育・健康づくり・教育課程・カリキュラム・マネジメント」



学生へメッセージ

皆さんは「身体は、使用すれば発達し使用しなければ退化する」ことを経験的につかんでいると思います。大学での学びの面白さは、なぜそのような現象が起こるのかについて、必要な『知識・技能』を獲得し、次に目的の明確化や改善のための『課題発見』をし、さらに本質を見極める『批判的思考』を行い、それらを組み合わせることで解決する方法を生みだし実行に移す『課題解決』によって個々の資質・能力がリング状に向上していくところにあります。

それが【運動生理学】であれば『運動を行うことによって「ヒトのからだにはどのような変化が生じるのか、その現象と仕組み」について学び、「健康維持に運動はなぜ必要なのか」について考え、実践へと発展させる』ことであり、【幼児期における身体活動】であれば、『幼児の発達に合わせて経験することが望ましい運動について理解し、その指導法について課題解決の視点から体験的に学び、運動あそびを組み合わせることで子どもたちの運動機能の向上を目指し、有意義な運動会種目を構想する力を養う』ことで具現化されていきます。

教職科目の中でも同様です。1問1答形式の学習を基盤にした、「深い学び」の実現に向けて、少しだけ手間のかかる学修を皆さんと一緒にやりたいと思います。